

第 58 回年次学術講演会 講演申込書（平成 15 年度）

講演希望 部門・セ ッション	第 1 志望	講演部門	I II <u>III</u> IV VI VII 共通/特別セッション	セッション名	支持力
	第 2 志望	講演部門	I II <u>III</u> IV VI VII 共通/特別セッション	セッション名	基礎工
	第 3 志望	講演部門	I II <u>III</u> IV VI VII 共通/特別セッション	セッション名	地盤の応力と変形

共通セッションを第 1 志望にする場合は，一般部門から第 2，第 3 希望をご記入ください。
講演部門は該当する部門名を で囲んでください。

題 目	和文	支持力深さ係数に関する実験と考察	原稿の言語 ① 日本語 2. 英語
	英文	Experimental studies on the depth factor in the theory of bearing capacity	講演の言語 ① 日本語 2. 英語

題目は論文の題目と一致させてください。

和文概要 (300字以内)	基礎の根入れ，形状などさまざまな条件に対応して地盤の極限支持力を厳密に求めることは困難である．
	実用的には通常の支持力係数（ N_c ， N_q ， N ）を修正した一般支持力係数を導入するやり方が推奨される．
	本研究では塑性論的考察より，一般支持力係数のうち深さ係数を解析的に導く事を試みた．同時に，間隙
	比 e を $0.65 < e < 0.75$ に調整した模型砂地盤に対し，基礎巾 $B=2$ cmの帯基礎， $2R=3$ cmの円形基礎および
	$B=3$ cmの方形基礎を根入れ D を $0 \sim 14$ cmとして支持力実験を行った．
英文概要 (空白を含み半角600字以内)	This paper describes both the analytical and experimental investigation for determining
	the depth factor appeared in the original bearing capacity formula. The results of analysis
	indicate the depth-factor in terms of cohesion d_c is nearly equal to the factor in terms of
	surcharge d_q , which is given by $1+0.2D/B$, where D and B denote the depth and width of
	the foundation. On the other hand, the experimental results give the relation $d_q=1+0.15D/B$.
The difference between the analysis and experiments is due to local failure occurred during	
the test for greater depth.	

キーワード	和文	1. 支持力	2. 深さ係数	3. 形状係数
		4. 模型実験	5. 数値解析	6. 支持力公式
	英文	1. bearing capacity	2. depth factor	3. shape factor
		4. model test	5. numerical analysis	6. bearing capacity formula

講演者は個人の土木学会会員に限ります。

フリガナ	年 齢	フリガナ
名前 (姓/名)	会員種別	所属機関 / 部課名
Family Name / Given Name	会員番号	Affiliation / Section

所属機関名は略称を用いないこと。ただし、略称の方が一般的な場合 (JR, NTT 等) はこのかぎりではありません。

講演者	(フリガナ) ヨツヤ / タロウ	24 才	(フリガナ) ドボクダイガク / コウガクブ
	(名前) 四谷 / 太郎	F・正・学・協定 ()	(所属) 土木大学 / 工学部
	(英語) Yotsuya / Tarou	1 9 9 8 0 1 2 3 4	(英語) Doboku-Univ. /
連絡者	(フリガナ) イチガヤ / ジロウ	22 才	(フリガナ) シナノマチコウカダイガク /
	(名前) 市谷 / 次郎	F・正・学・非・()	(所属) 信濃町工科大学 /
	(英語) Ichigaya / Jirou	1 9 9 8 0 1 2 3 5	(英語) Shinanomachi I.T. /
連絡者	(フリガナ) イイダバシ / サブロウ	50 才	(フリガナ) スイドウバシケンセツ ギジユツブ
	(名前) 飯田橋 / 三郎	F・正・学・非・(ASCE)	(所属) 水道橋建設 / 技術部
	(英語) Iidabashi / Saburou	1 9 9 8 0 1 2 3 6	(英語) Suidobashi Construction /
連絡者	(フリガナ) /	才	(フリガナ) /
	(名前) /	F・正・学・非・()	(所属) /
	(英語) /		(英語) /
	(フリガナ) /	才	(フリガナ) /
	(名前) /	F・正・学・非・()	(所属) /
	(英語) /		(英語) /

参加証送付先	宛先氏名	四谷 / 太郎	送付先種別 (印をつけてください)	1. 勤務先 2. 自宅
	住所 (部署名, 学科名・研究室, アパート名等まで詳しく記入のこと)	〒160 - 0004 東京都千代田区五谷 5 丁目 3 番地 土木大学工学部土木工学科 コンクリート研究室		

連絡先	連絡者氏名	四谷 / 太郎	連絡先種別 (印をつけてください)	1. 勤務先 2. 自宅
	TEL: 03-3355-3441	FAX: 03-3355-3441	E-mail: yotsuya@doboku-u.ac.jp	

登録参加料	登録参加料 払込日	3 月 10 日 (払込み <u>済み</u> ・ 予定)	送金額: 15,000 円 (他講演者と合算のときは内訳 (氏名・部門) を通信欄へ)
	払込方法	<u>郵便振替</u> ・ 持参 (現金)	
通信欄: 払込済み郵便振替受領証の縮小コピーを必ずこの欄にのり付けしてご提出ください。			
<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; width: fit-content; margin: auto;"> 払込票兼受領証 </div>			

事務局記入欄	受付 No.	登録参加料	原稿受付	部門	No.
		/	/		
	事務局記入	事務連絡用番号	注記	ページ	
	センター記入	会議番号	レコード番号		

太枠内以外の方はプログラム及び講演概要集目次には掲載されませんが、会員種別欄の () 内には海外協定学協会の略称を入れてください